



幅広い世代が集まる「公民館」へ

市民クラブ 八尋 伸二

一 公民館の運営について

問 本市の公民館もコロナ禍による稼働率が激減したが、現在は急激なペースで戻りつつある。地域コミュニティを維持するためには、公民館での交流の機会を増やす必要があるが、本市の公民館設置の目的は何か。

答 秦野市立公民館条例では設置目的を「文化、学術等の教養を高める事業を行い、全ての市民に豊かな学習機会を提供するとともに、市民の自主的な学習活動を支援し、促進すること」と定めている。

問 公民館を再び地域コミュニティの拠点とするために、今後どのようなことを実施していくのか。

答 今後も設置目的を踏まえ、魅力ある地域学習の推進、多様な学習機会の提供をはじめ、市民の生涯学習を支援する拠点、そして、地域コミュニティの拠点として役割を担うことができるよう、他の自治体の先進事例などを調査・



研究するとともに、関係機関・各課などとも課題を共有し「みんなが集まり、みんなが学ぶ、みんなが楽しむ公民館」の役割や体制づくりを引き続き検討していきたい。

要望 福岡市立公民館は、大学や企業、病院などの専門家と新たな視点での連携を行い、地域の担い手(NPO法人など)を育てることも目的としている。本市とは財政規模も異なるが、各公民館の企画を動画などで共有し幅広い世代が参加できるようにしてほしい。



多くの人でにぎわった公民館まつり



4駅周辺にバイクの駐車場を整備せよ

創和会 原 聡

一 本市の特産品・落花生のこれからについて

問 本市の特産品である落花生の「秦野落花生生産支援事業補助金」の支援の取り組みはどうか。

答 残渣処理代を含む10万円あたり4万円を上限に支援している。

要望 生産者の意欲向上に向けて表彰制度を創設してほしい。

二 バイオオマス産都市構想における農業の役割について

問 地産地消を軸とする本構想における農業とバイオオマスの活用関係はどうか。

進のほかに持続可能な消費と生産のパターンを確保していく。

問 市内事業者も薪ストーブの製造・販売をしているが、市として調査・研究はしているのか。

答 薪は木質未利用材の中で販路拡大が必要な部分があり研究する。要望 農業用ハウスの補助暖房に薪ストーブを併設し、薪の利用促進や灰の活用を研究してほしい。

三 オートバイ利用者から見る小田急線4駅周辺のにぎわいについて

問 125cc以上の二輪車は自動車に分類されるため駐輪場に停車できないが、秦野・渋沢駅前の市営駐車場で駐車することは可能か。



多様性に配慮した学校づくりと児童・生徒の支援に努めよ

市民クラブ 野々山 静香

一 学校教育の取組と環境づくりについて

問 学校の在り方や学びでは、多様性を重視すべきと考えるが、学校教育での取組状況はどのようか。

答 児童・生徒については、心情的や考え方の理解に努め、状況に応じて、心理の専門家も活用したチーム支援体制となるよう共通理解を図っている。また、職員については、人権意識の向上が重要と考えるため、多様性を認め合うインクルーシブな学校の実現に向け、研修などを通して、理解が深まる



庁舎などにLED照明を導入し電気代削減を図れ

無所属 佐藤 文昭

一 環境都市施策について

問 令和2年度から、道路や公園などの街路灯をLED化したが、効果と今後の状況はどのようか。

答 10年間のリース契約で一括導入し、約900万円の削減効果があった。今後、50施設全体で年間約3千万円の削減を見込んでいる。

問 戸川土地地区画整理事業の地権者から、家の車庫、門扉の移設などに対する不安や不満の声があるが、その対応はどのようか。

答 補償などへの具体的な考え方を示した説明会を開催している。

問 市民から矢張り整備事業に関する意見交換会、説明会を開いてほしいとの声がある。自然環境を守るべきなどの意見を聞く場を設ける考えはあるのか。

答 権利者に対して説明会を予定するほか、市政ふれあいトークやメールでの意見には適宜回答する。

二 福祉施策について

問 子ども食堂は、家族で食事が難しい子どもだけでなく、さまざまな世代も含めて利用できる制度にすべきと考えるが、どうか。

答 支援を必要とする誰もが気軽に利用できる居場所として、地域に根付くように支援していく。

三 教育施策について

問 いじめ防止対策には多くの人の見守りが重要だが、どのようか。

答 教員に限らず教育支援助手、事務職員など総勢990人が、子どもとの関わりの中で変化に気づき、早期発見に努めている。



座間市立中学校で導入されるジェンダーレス制服(座間市HPより)

バリアフリー化がある。また、制服の在り方も見直しが進み、男女兼用のブレザーや女子でもストラップスを選ぶデザインを採用し、多様性を認める学校が増えていく。

要望 多様性に配慮した学校づくりと、児童・生徒に寄り添った支援を展開してほしい。



庁舎などのLED化は早期に検討し実施を



懇話会の市民周知の徹底を

自民党秦野 今井 実

一 懇話会について

問 市長の重要な公約である小田急線4駅周辺のにぎわい創造について、懇話会設置に向けた進捗はどのようか。

答 鶴巻温泉駅周辺の懇話会は令和4年11月に第1回目を開催し、課題解決に向けた取り組みの方向性について膝を交えて話し合い、施策に反映する内容を確認した。

要望 年齢に関係なく地域全体にぎわいづくりを理解し地域が主体となることが重要である。市の取り組み姿勢などをしっかりと周知し、機運の醸成を図ってほしい。

二 ジビエを活用した取組について

問 弘法の里湯の運営について



「宗教による支配」を教えられないか

無所属 吉村 慶一

一 「宗教に関する教育」と「支配」について

問 世界平和統一家庭連合(旧統一教会)のような宗教団体による被害を予防するための教育について問う。本市の中学校が採用する歴史の教科書(約300ページ)には45ページにわたって「支配」という記述がある。公民の教科書には日本国憲法を学ぶ章に「法の支配」や「宗教を信仰するかしないか、どの宗教を信仰するかを自分で決める信仰の自由」との記述がある。いわゆるマインドコントロールという意味での「宗教による支配」が持つ危険性を生徒に考えさせる発問はできないか。

答 憲法第20条や教育基本法第15条の規定から、宗教行為の持つ否定的な側面を題材に、義務教育段階で発問することは難しい。一方、学習指導要領においては、宗教に関する内容も含めた課題や困難に対応する力、例えば情報活用能力

や問題発見・解決能力が重要とされており、学校教育のさまざまな場面で育成する取り組みをしたい。

問 地動説を説いたガリレオ・ガリレイの例でも、宗教は「信じて」と教え、学問は「疑問を持って」と教えている。宗教を疑問の対象とするのは困難なのか。

答 本市に旧統一教会問題の事例報告はないが、マインドコントロールというか、保護者の考え方で子どもたちが悩むケースはあり、問題解決能力の育成が重要である。



教育現場で問題意識のきっかけづくりを



にぎわい創造検討懇話会の様子

マチイロ
「マチイロ」で議会だよりが読めます
スマートフォンやタブレット端末で手軽に読める議会だよりを配信しています。ぜひご利用ください。
※通信費は利用者負担となります。
ダウンロードはこちらから▶